

単元名 ききどころを見つけて

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わりに気付くことができる。
 (2) 楽器の音色、旋律の特徴や反復と変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲のよさを見だし、曲全体を味わって聴くことができる。
 (3) 楽器の音色、旋律の特徴や反復と変化に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

03070302_001

【教材名】組曲「アルルの女」から（鑑賞）

(P. 54～P. 55)

【準備等】鑑賞CD、ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～3 「メヌエット」「ファランドール」の曲の感じをつかみ、主な旋律に気を付けて、楽曲の変化を味わいながら聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「メヌエット」の中心となる楽器について知り、最初の部分を聴く。 ★楽きの音色や曲の流れをとらえてきこう <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の写真を見て、フルートやハーブの音色を味わいながら聴く。 ・旋律をつかむ。 ○全曲を通して聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・最初の旋律を口ずさみながら聴き、旋律が変化したところ、更に変化したところで挙手する。 ・強弱や楽器の変化にも気を付けて、最初の部分、真ん中の部分、終わりの部分をそれぞれ聴いていく。 ○「メヌエット」の曲全体を味わって聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲のよいところについて意見を出し合う。 ○「ファランドール」の二つの旋律を捉える。 <ul style="list-style-type: none"> ・最初から、旋律2の初出が終わるところまで聴く。 ・旋律1の初出の部分を、体を動かしながら聴き、旋律を捉える。 ・旋律2の初出の部分を、体を動かしながら聴き、旋律を捉える。 ・二つの旋律について、特徴をメモする。 ○「ファランドール」を全曲通して体を動かしながら聴く <ul style="list-style-type: none"> ・「旋律1」（三人の王の行進）と「旋律2」（ファランドール舞曲）が交互に現れていることに気付く。 ・「旋律1」「旋律2」のグループに分かれ、それぞれに合った体の動きを考える。 ・グループが向きあい、旋律に合わせて動きながら聴く ・自分たちの旋律でないところは、相手のグループの動きを見ながら座って聴く。 ・気付いたことを出し合う。 ○「ファランドール」の曲全体を味わって聴く。 <ul style="list-style-type: none"> ・曲全体を静かに聴く。 ・この曲のよいところ・面白いところについて意見を出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭部分はフルートとハーブが中心であることを確認する。実物があれば提示する。P 75を参考に、フルートは木管楽器であることも伝える。 ・旋律を覚えさせるようにする。 ・「旋律が変わったと思ったところで手を挙げよう」と言うしておく。Bの部分では挙げた手をいったん下ろさせ、A' でまた挙がるようにする。 ・「始め」は冒頭の部分で、フルートとハーブが活躍する。「中」は、全ての合奏が加わる部分である。「終わり」は再びはじめの旋律が出てくる部分である。 ・「始め」「中」「終わり」に分けて、気付きを出させ、板書してまとめていく。 【評】楽器の音色、旋律の特徴や反復と変化を捉えて聴く活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・同じメロディーでもリズムが変化して出てくる部分を聴かせ、理解させる。 ・「中」の部分では、既習のバイオリンやチェロなどの弦楽器が加わることを知らせる。 ・最後は、だんだん楽器が減っていくことを知らせる。 【共通事項】音色 旋律 反復 変化 【評】曲想と旋律や音色など音楽の構造との関わりを捉えて聴く活動を通して「知識」を評価する。 ・2つの旋律を繰り返し聴かせ、旋律の感じをしっかりと捉えさせる。 ・教科書のポートフォリオを利用する。 ・「1」「2」などの札を子どもたちに持たせ旋律が現れたときに上げさせると、視覚的にも捉えやすくなる。 ・体の動きは、曲想を生かしていれば大まかなものでよい。 ・向き合って動くことで、旋律が交互に現れることや最後に重なることに気付くようにする ・楽器が増えたり、響きが強くなったりしていくことにも気付けるとよい。 ・「まなびリンク」の動画を活用してもよい。 ・ワークシートなどを活用してもよい。 【評】楽器の音色、旋律の特徴や反復と変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや美しさを感じ取りながら、曲全体を聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する

